

新潟県

公民館月報

昭和59年1月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 100円 年共 1,200円】



新発田城

新発田藩歴代藩主 溝口氏の居城。初代 秀勝が慶長三年、六万石の石高で加賀大聖寺より入封、以来 明治二年の版籍奉還まで十二代、二七一年間、越後蒲原郡の開発拠点となった。天正十五年上杉景勝によって滅ぼされた新発田重家の城跡に築いたと伝えられる半城で、完成は三代宣直のころである。

後に寛文八年、享保四年と二度の大火に遭い、その度に再建されている。明治五年に城が取り壊され、現在は「表門」「旧二の丸隅槽」「本丸石垣、堀の一部」「土橋門跡土塁、石垣」が残っているにすぎない。表門、隅槽とも木瓦葺、入母屋造、塗籠、腰なまこ壁で裏日本における貴重な城郭建築として昭和三年、国の重要文化財に指定されている。

城内は戦前歩兵第16連隊、戦後新潟大学分校、本丸中学校等に使用され、昭和二八年からは自衛隊が駐屯している。

絵・新発田市公民館藤美会

菱沼 寿

文・「新潟県大百科事典」より

学習と公民館

(2) 第24回関プロ公研集会記録から

た自分の子供にないものを他の子供から学べるようにした。今年で6年目になるが、なかには2~3回、4回目のお父さんも出て、関心も高まりつつある。しかし、問題点もいくつかあるとして次のようなことがあげられた。①企業の勤務時間と学習時間があわない時がある(夜勤の時出席できない) ②夜間開設のため講師の依頼に苦慮する。③学習課題の設定時に十分な学級生との討議ができない。④募集方法の問題(現在は市の広報紙と、幼稚園、保育所に案内書を配布している) ⑤対象年代人口に対する学級生数は、ほんのひとにぎりである(3%) ⑥父親の学習意欲の低さから、父親学級の価値を見い出してもらえない、市内全域に父親学級の開設を目ざしたい。

最後に、今後の方向として、問題を正しくふまえて、少なくとも対象年代人口の10%程度に参加者を増やし、きめのこまかな学習を展開しながら、成人男子の公民館活動の質を高めてゆきたいとし、仲間作りをすることによって、お父さんが出番になって地域が変わったといえる真岡市にしていくことが課題であるとされた。

◆討議内容◆

討議の柱によって、参加者から具体例をあげての報告、意見が種々出されたが、総体的に社会体育においては出席は良いが、教養講座への出席が悪いという意見が多く、今後、成人男子の参加を促すのが問題であり、そのための講座の内容の選択、公民館のふんい気作りに関する意見も多く出された。討議内容におけるそれぞれの公民館例の概略、及び意見を次に述べる。

講座の内容については、①次期プログラムの内容は、閉講式をやった時に反省点をあげ要望があれば受け入れ参考にしてゆく。②父親の役割が問題になっているので、生涯学習として取り扱ったらどうか。③うずもれている人を発掘するには、質的に高い内容のものを与えていかねばならない。④趣味的講座はマンネリ化しているので、体系化した学習をとり入れる。⑤学習ニーズをつかむためのアンケート調査をし、回答から次年度のプログラムを組む。⑥準備会をもち、課題を見つける。⑦成人男子のためのプログラム作り——価値感の多様化している人々が集まりテーマを見つけ展開させる。等の意見が出された。また、参加を促す手段として、①公民館に対し、意欲を出させるふんい気作り、②幼稚園や保育所に用紙を配布したり、前年度修了者に協力を得たり、職場、スポーツ団体を通して参加を促す。③初めは積極的な人を対象にし、そして徐々に浸透させてゆく。④社会参加直結への呼びかけ、たとえば、公民館の手段として、民俗調査などを行い、地区の人が地区を調べるなどして、成人男子に必要なからやらなければならないという学習の要求をおこさせる、等の意見が出され、まずは、地区の活動に出てゆくことから地域の人をつかってゆき、地道に社会教育というものを浸透させてゆく必要がある。婦人教育活動が今のように盛んになるまでには、積みあげた実績があり、婦人が何を求めている

かをつかんだためである。成年男子の社会教育は試行錯誤であり、積み重ねにより課題をつかみ、それが生きがいにつながるようになれば、光が見えてくるのではないだろうか。

◆残された課題◆

講座の内容の選択、成人男子の参加の難しさなどの問題点を正しく把握して、良策をたてるべきである。

◆ま と め◆

参加者の質が高く、活発に意見が出たため時間が足りないほどだったが、参加者自身が話しあいにより目ざめたので非常に有意義であった。

助言者より、次のような提案がなされた。

1. 社会教育における成人男子の歴史的考察などをして、皆で考えてゆくのもよいのではないか。
2. 公民館で成人に対する社会活動を呼びかける。
3. 行政でお父さんと取り組んでいるぞ——公民館のイメージを共通認識へ結ぶ。
4. 成人教育の調査活動、広報活動に木眼を入れる。
5. 成人が中心になって、もっととりあげてほしいものとして、①教育問題、②芸術文化、③自然科学——実践活動に結びつけたもの、④情報の選択——成人の義務、文化のカギである、⑤家庭の問題、⑥視聴覚メディアを使った学習プログラム——コンピューター講座など、⑦社会問題——有給教育休暇などの男子向きの問題意識提示、⑧大学生の講座、⑨新しい産業構造における人間形成の問題、などがあげられた。

長期展望として、親子共同学習や、ファミリー向けの催しものなどで、子供へのアプローチをしていく、担当者の知恵が決めてである。成人男子の社会教育こそ、子供達の非行の歯止めであり、役割は大きい。今後、ますます発展させていく必要がある。

公民館のあるべき姿と今日的指標

—総集版—

全公連では十五年
前に発行した「公
民館のあるべき姿
と今日的指標」の
復成再刊の要望に
答えて、新しく第
二次成案を合本
し、「総集版」を
発行した。

頒
価
二、五〇〇円
(送料別)

第一次成案
解説
第二次成案
(新しく合本)

Ａ5版 布クロ
ス仕上げ
三五〇ページ
内容

申し込み先

新潟県公民館連合会
951 新潟市川端町二一九

TEL 〇五二四一〇五
県林業会館内

成人男子の

第24回関東甲信越静公民館研究集会在昨年神奈川県藤沢市で開かれ、このたび分科会記録がまとまった。この大会では、公民館をめぐる諸問題をふまえて17分科会が設定され、「豊かな地域づくりに果す公民館像」を求めて熱心に討議がくりひろげられた。ここに内容の一部を要約して紹介していきたい。

＜討議内容の柱＞

- ・成人男子の参加を促す公民館活動を考える。
- ・成人男子を地域に目を向けさせる学習内容を考える。
- ・成人男子の学習を生涯教育として考える。

◆発表内容◆

真岡市は、近年、工場誘致による都市化の波にともない人口の増加とともに、青少年の非行も年々増加しているため、青年男子を対象とした活動として公民館を中心に地域の教育力を高めようと青少年の健全育成に力を入れている。現代の社会は、青壮年層、熟年層つまり50～60才代が20～30才代を悪くしているとして、地域活動を通して目をさまさせようとし、そのために母親ではなく、「お父さん出番ですよ」として父親に呼びかけ、懇談会を通して公民館活動を行っている。また、かつて盛んだった頃の青年団活動をもとにもどそうと、OBの組織を作ったり、老人クラブを自主的に活動させ育成させている。他に、仲間ふやしとして、学級講座の中の・お父さんの仲間・男の料理教室・やり直し講座などを設けて活動している。今回は、その中の「お父さんの仲間」をとりあげ、その詳細について説明がなされた。

「お父さんの仲間」

真岡市は、人口の増加に伴い、20～30才代の父親が急増し、そのため5才児（就学前）の父親を対象にした学校教育を考える5才児父親学級を開設し、「お父さんの仲間」とした。子供の状況を正しくつかめていない父親が多いため、親子いっしょに参加するプログラム、たとえばキャンプ、工作、見学旅行などを多数組み、親子のふれあいを主にし、ま



〇〇時間など言っていて、三十分や一時間くらいは遅れて来るのがエチケットであるかのよう

四文字熟語

河嶋栄一

これは軍隊生活をした人達告してくれ、全く軍事な復命である。物々頼んでも鉄砲主の

隊では「……等こいつのはタラように行きなはなし、結果がどうなつたか分かる若い人の中にある、すばらしい中学生のものも多くなはし。

(荒川公民館長)

この「四文字」を習って始めの個體を上げるつもりで書いたが、またまた時

ある日、進軍時に女子中学生

その外、軍隊にはいろいろな

資料歓迎

公民館で作成した資料や文章作品集または鑑賞などを送って下さいませんか、県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思っております。

投稿歓迎

感想などを結構、折にふれて気懸けペンを走らせてください。採用文には粗品を送らせておきます。

編集部

全国優良職員表彰受賞の記

生活と結びついた

公民館を

宮沢忠男

昭和三十四年、水沢村教育委員会でただ一人の、社会教育課長兼公民館課長となり、初の専任職員であった。当時は専用の施設設備もなく、活動はちぢらが出かけて行くが主であった。会場は、学校や部落の共同作業場の二階。昭和三十七年、十日町市と合併し、私も二回ほど他に出て現在に至っている。

現在の公民館は立派な専用施設となり、機器も揃い、予算もそれなりについている。事業も「出前」型から「施設設備を活用して、住民の生活の一部として、住民の生活の一部として」になってはならないものになる事をせまられてはいるのではないだろうか。

「住民の意識を養える」とは本された言ひ方だが、自分の好きな事をもって楽しむだけでは、例え善くとも、仲間としっかり手をつなぎ、みんなで考え、智慧を出しあって行動して行く。「今、何が必要か、やらなければならない事は、生きがいのとは何か」公民館などの事へのお手伝いが非特、大切になっている。

自戒をこめて、公民館は「お楽しみ」の場から、住民の生活の一部として「なくてはならないもの」になる事をせまられてはいるのではないだろうか。

(十日町市公民館副館長)



◎ ◎ ◎

公民館

(3)

第24回関プロ公連研究集会記録から

員をまじえて相談活動を行っている。

一グループ活動と会場確保の問題一

・自主グループが育成されればされるほど、会場確保は困難になる。一例として定期予約制度(長期間の予約)を試みたが特定グループだけ利用するという危険性もあり現在は廃止している。

・ひとつの解決策として、類似公民館を利用していく方法もある。それらの利用については、公民館が仲立ちをして会場を確保してあげるのも一方法である。また、学校施設の利用等も考えていく必要がある。

・新しくできる施設は、どうしても交通の不便な所に建設されるため、利用者負担がかかる。他の施設を利用するにしても金銭的に多大な負担がかかる。これらの問題を解決するために、例として、老人いこいの家、児童館、あるいは神社等を利用していくことも考えられる。

一団体の育成について一

利用者側の意見として、母親たちがボランティアで親子劇場等自主的に開催しようとするとき、経費がかかるのでその経費を徴収するため、公民館側から営利団体とみなされ、会場利用が有料となる。親たちがボランティアで行っているものなのに町と公民館と利用者の間で問題になる。これからこうした文化的な新しい団体が育てくると思う。それに伴い町民の要求もでてくる。それらについて町当局は、どのような声から出されているか調査するようすがない。住民のニーズ、プログラムの内容等、住民要求と公民館の対応のしかたを考えていく必要がある。

・会場利用経費免除として、共催、後援、会員券利用のような形にして免除してもらおう方法もある。

・その他、社会教育団体として認定する基準等が話題となり意見交換が行われた。

◆ま と め◆

助言者 自主グループ育成について、行政の必要課題は余り強く出せないと思う。学習内容の中で、学級生の要求課題

になっていくか、公民館の職員としてはある程度色々な意味でのアドバイスにとどめておくこと。余り行政がかかると制約がでてくる。適切なアドバイスをしていく、そういう意味で公民館がふみ切っていくことが必要である。

次に、学ぶ楽しさを味わうことも必要である。自分たちの希望の線を生かしていく意味では、学ぶ楽しさがなければいけない。従って、自主グループというものは企画運営面において全てを学級生で考えていくことになる。また、公民館の学級講座以外のもので単発の事業もあるが、そういった事業を通して育成していく方法もある。

さらに、公民館に専門的な力量を持った職員がいることも市民が望む援助のひとつである。社会教育主事、社会教育指導員等において、指導助言等をしていくことの必要がある。

公民館側でグループのあり方に対する明確な考えを持つこと。地域の実態を考え、地域に根ざしたグループを育成していくことが大切である。それが地域に役立つ住民をつくっていくことにつながる。育てたい団体については、年度的に軽重をつける必要がある。また、リーダーの養成と研修は、公民館側で考え、連絡調整が必要である。

公民館として、情報の提供が大切、時代が要求する学習課題を計画的にとり入れたグループづくりが大切である。主体的に動ける人を先ずつくる必要がある、また、主体的に活動できる場所、主体的に費用を捻出できる必要がある。

自主グループが増加する中で会場を確保することも大きな問題である。他の施設との連携を考えていかなければならない。活動の時間帯も考えて、夜間に集中することなく昼間の活動も考えていくことが必要である。また、学校と併設させて公民館が建設される所もあるが、今後はこうした施設のつくり方も考えなくてはならない。

それぞれの立場で、皆さんも日々仕事をなさっておるわけですが、お互いに目的は同じなので、住民の要求を少しでも公民館でとり入れて、公民館が自分のために必要であるというようになり、職員がお互いに地域住民の方々とふれ合っていくようにがんばってほしいと思う。

追悼・俵谷正樹先生 木の命が鈴色に輝く

俵谷正樹先生が急逝された。五十歳代の若さで、生れ故郷の新潟県社会教育研究会に、公開講演の講師としておいでになられた時で、この講演の後には、柏崎市においでいただいた。最後は、昭和五十六年十一月十六日の第10回柏崎市公民館研究大会に記念講演をお願いした時で、全国社会教育海外研修の引率を終り、国立兵庫教育大学に赴任される直前の時であった。この時に「コミュニケーション関係のストライトを依頼されたところ、次のような札状をいただいた。

「引越してゴチャゴチャしているうちに松山でのNHKの研究集会、東京へ戻ってきたらストライトが届いておりました。本言にありがたうございます。大学では四月から社会教育研究、教育と情報、人間尊重の教育、教育基礎論という科目を教えます。スライドは講義に使わせていただきます。」

○ 俵谷先生と最後にお会いしたのは昨年十月十六日、新潟市の白山公民館で開催された「第二回

新潟県社会教育研究会に、公開講演の講師としておいでになられた時で、この講演の後には、柏崎市においでいただいた。最後は、昭和五十六年十一月十六日の第10回柏崎市公民館研究大会に記念講演をお願いした時で、全国社会教育海外研修の引率を終り、国立兵庫教育大学に赴任される直前の時であった。この時に「コミュニケーション関係のストライトを依頼されたところ、次のような札状をいただいた。

「引越してゴチャゴチャしているうちに松山でのNHKの研究集会、東京へ戻ってきたらストライトが届いておりました。本言にありがたうございます。大学では四月から社会教育研究、教育と情報、人間尊重の教育、教育基礎論という科目を教えます。スライドは講義に使わせていただきます。」

○ 俵谷先生と最後にお会いしたのは昨年十月十六日、新潟市の白山公民館で開催された「第二回

公民館番頭日記

風が吹いて雨が降ると水車は響んでカランカラン音をたてます廻るまじに工夫され廻らないと粉がひけないよに作られているからです風が吹いただけでは駄目です雨が降るだけでも駄目なのです水が流れると命が通います風が吹いて雨が降りますと水が流れて古びた木の命が鈴色に輝きますのです(柏崎市中央公民館 参事兼事務長・徳岡助夫)

グループ活動援助と



(熱心に聞き入る参加者)

＜討議内容の柱＞

- ・団体育成のあり方を考える
- ・団体への援助のあり方を考える
- ・団体が主体的に活動できる方策を考える

◆発表内容要旨◆ (補足として他資料参照)

＜自主グループ育成の一視点＞

六郷成人大学講座を企画し男性31人、女性15人という、今まで市では実施できなかった成人男子中心の混成学級を開設した。公民館では、この成人大学講座を手づくり学級として成功させるため、プログラム編成から学級運営に至るすべてを学級生に企画させ実施させた。学級運営は「一人一役主義」を徹底させ、このことにより学級生同志に連帯感が育ち、欠席者も少なく活動がスムーズに展開された。年間16講座のうち5回の公開講座を開設した。学級生は講師の選定等自らの手で行い宣伝活動も実施し1千名をこえる聴衆を集め公開講座を成功に導いた。

学級が指定を終ろうとしていた3月、反省会を行い自主学級として出発することをすすめた。参加費等の問題で意見が分れたが「成人大学講座」の仲間を失いたくないという信頼感から、自主学級として継続していくことになった。参加費は年間3,000円とし、会員50名で自主学級が誕生したのである。その内容は補助学級と同様に、公開講座や特別講演会等を企画実施し、地域住民に還元するなどまさに地域リーダーとしてふさわしい資質を備えてきたのである。その他の自主グループは9団体あり、公民館では教室からサークルへの移行について指導助言は行っているが講師謝礼等の援助は一切行っていない。

公民館では、各種サークルのリーダーの資質向上のため、指導者講習会等も実施し、横の連携も図るように配慮している。しかし、公民館活動が活発になるに伴い、会場や利用時間の問題及び文化団体としての登録問題等、今後、公民館として考えていかなければならない問題も生じてくるであろう。

公民館活動の基本は、住民と気軽に話し合い住民の立場に立って企画立案することが必要である。より良い学習プログラムなくして自主的サークルは育たないであろう。自主的サークルを育成し、地域文化の向上に貢献してゆくことは、公民館の使命であり、地域コミュニティ形成への重要な任務であろう。

◆討議内容◆

一自主グループと公民館のかかわり

自主グループになっていった場合、究極的には、地域のリーダーを養成することが行政の目的である。しかし、実際には公民館活動から自主的な活動へ移行していく場合その養成がなされていない。例えば、婦人学級等で運営委員はできるが、リーダーとして育っていく要素は少ない。そ

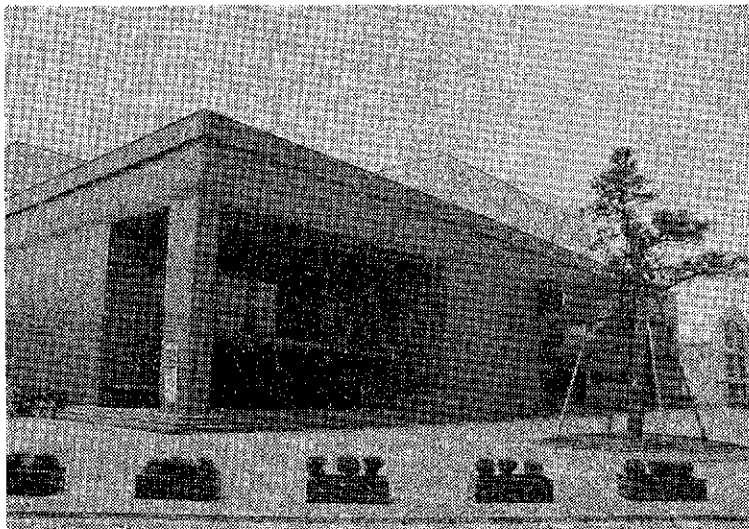
こで、公民館として学級生の中の代表だけでなく、それ以外の人から助言をしてもらい、企画に参加してもらおうとか、そうわり形になってくれば学級生と運営委員と公民館がプラスされて、いろいろなプログラムをつくっていく。運営委員は第三者的な立場、受講生は自分たちの趣味、要望を出してくる立場、公民館は行政的な立場でひとつの理想的な条件になる。三者がお互いの立場を理解し合いながら運営していけばリーダーが育ってくるのではないか。

公民館は自主グループになった人たちを集めてリーダーの養成を図るための研修会を開いていく必要がある。公民館としてグループが自主活動に移行する場合、講師の派遣とか講師や助言者を紹介してあげるとか、会場を提供するとか、あるいは職員がそれらの面で相談や助言を行い、グループ間の相互交流の場を設定していくことも考えられる。学級生とともにプログラムを作ることが、市民がのぞむ援助になると思う。

一グループ育成と援助一

・公民館の事業を通して、自主グループ化への働きかけより、グループが多すぎて調整、援助活動に困難をきたしている。公民館の主催事業から生まれたグループが40ある。それらのグループ活動と会場の取り合い等、調整するのに苦勞している。また、最近グループが少人数化して内容が非常に多様化している。学習グループというより趣味的な内容のグループが多くなっている。社会教育の中では否定はできないがもっと地域課題等の学習を主体としたグループの育成を図ってきたい。

・公民館で行った事業から出発した自主的な学習グループがどのように育ってきたかという、グループ育成補助金という行政側から援助をする制度がある。公的な学習から自主的なグループに移る場合、自主活動化するために当然の権利として補助金として取得する。そうした援助をもとに、自立的学習と地域活動と自らが地域に生きていく、という考えのもとに地域の活動に還元している。グループは自主的な連絡協議会をつくって、グループのあり方、会場利用等について職



県公連表彰

優良公民館紹介

巻町公民館 (文化公館)

1. 沿革

昭和53年12月20日 着工
昭和55年3月31日 完工

2. 施設設備状況

鉄筋コンクリート造り 地下1階 地上3階
搭屋1階

- 図書室 135 m²
- 調理実習室 58.5 m²
- 視聴覚室 96 m²
- 研修室 和室 1 (56m²)
洋室 1 (200m²)

小ホール 240m²

駐車場 約200台収容

3. 職員数

- 館長 1名(常勤)
- 主査 1名(常勤)
- 主事 2名(常勤)
- 臨時雇員 1名(常勤)
- 社会教育課長補佐 1名(常勤)
- 社会教育主事 1名(常勤)
- 社会教育指導員 1名(非常勤)

4. 予算状況

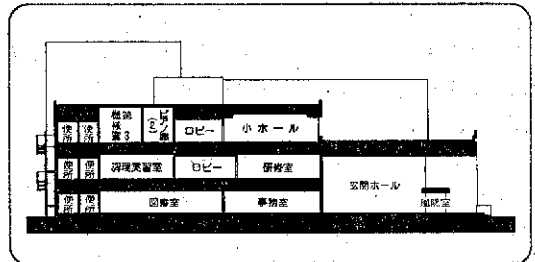
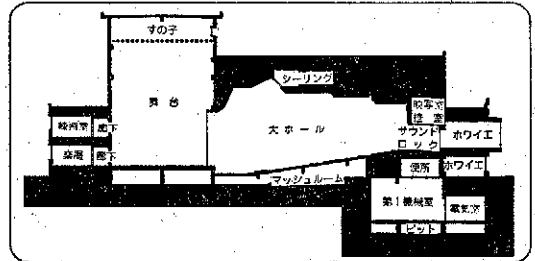
総額 113,419千円(住民1人当り3,953円)
内訳運営費 17,023千円 事業費 4,310千円

5. 活動状況

- ・青少年教育(ジュニアリーダー研修会・青年学級・他)
- ・成人教育(町民講座・趣味実務教室・他)

- ・婦人教育(婦人教室・婦人団体指導研修会・他)
- ・家庭教育(家庭教育学級・他)
- ・高齢者教育(長寿大学・老人生きがい対策事業・他)
- ・視聴覚教育(映画技術講習会・他)
- ・文化・芸能(文化祭・芸能祭・各種文化団体・町民大会・他)
- ・文化財保護(指定文化財の管理指定・遺跡の巡視・他)
- ・分館活動の推進

ホール断面図



公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規定・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部300円(送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 0252(24)6073

公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根ざした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌の中から、今月は新潟市中央公民館の「文芸にいがた」からの詩を紹介します。



作品集を歓迎

公民館で作成した文芸作品集や館報、または広報案内資料などをご送ってください。毎月上記の欄に紹介してまいりたいと思います。

詩

「風」との出会い

北 島 桂 子

母親からはまっすぐに子供に伝わ
るものがあって 子供はそれをし
っかり握りしめて歩きはじめるの
ですが
まだ歩かないうちに二人を結び糸
が切れてしまったので
私は一人で糸の両端を持ったまま
体を少し傾けて歩いていました
マッスグニ アルキタイ
マッスグニ アルキタイ
という言葉が 時に噴水のように
空高く噴き上げてきます

風は 生まれたばかりの可愛い葉 陶酔の境地とでもいうようなひと
の上をしなやかな手で撫でながら ときでした
そっと何かをささやいていました その時間はとても長い時間のよう
その手には見覚えがありました にも思えましたし ほんの束の間
声もいつかどこかで聞いた事がある のようでもありました
ります
そう思った瞬間 誘惑に似た或る と声が出そうになりましたが
種の感情が全身を貫いて 思わず 私の言葉を遮るように 少しきつ
風の方をめぐらせて糸の端を投げて い調子で風が言いました
いきました
風は素早く糸を握りしめると マッスグニ アルキタイルヨ
まるでワルツでも踊るように空に 私には風の気持ちがよくわかりま
舞い上がりました したので 風の方を向いて黙って
自分の存在をママゴトのように枝先に うなづきました
葉っぱをママゴトのように枝先に 浮かびました
並べていました
X X X
「文芸にいがた」より

プロフィール

安塚町公民館主事 岩崎 修氏(31才)

修氏、油のみなぎった人生を迎えた一人にならうか。身長一八三センチ、体重はさほどは若もえなが、すなりタイプのが好青年である。おおよく町民五、六〇〇人中でも長身屈指者といえよう。ましてや役場職員内では横綱である。八年前京都大学文学部を終え、役場入りした。総務課所屬となり、消防、選挙事務を始めた。二年前の異動に伴ない公民館に移られた。以求公民館主事一筋今日を歩む。担当は青少年教育であるが、今日の様々な危険な問題を誘発している世相の中で、対応を施策にどう組立ていくべきか、模索する昨今である。彼の住居は四〇〇余りの檀家をもつ浄土真宗派の寺院である。僧職については殆んど両親任せでなかろうか。無理もな

いはず、せめて手伝いせねばと気になるほどだが、今日な若日曜、休日こそ社教活動の場なのである。父親は六〇代になられ、働きざかりといえるのか、民生委員や保護司の職で世話役に没頭されておられる。

何処も持たず、頼る気にかかぬのが、後継者問題である。まして当人は青年組では兄弟分ともなれ、伴侶の話題ははなははすがなく、まっやく目出た金の射止め、目下新婚二月の甘い日々を送られてる。

かつて大学時代には社教を運営、差はれたはずだが、再度改良、国立社研の門をくぐり四十日間を挑まれたことで、ご結婚を申しした。

日頃の彼は回数多い方ではないが、酒席には型に似合わない「エッセンスな話術」もち、パレール、野球など何をもこなせるスポーツマンタイプでもある。彼も又、バミントンなど特技を持ち、まさに似合いのスポーツカッパルを羨まれることである。これからは後輩のリーダーシップとして活躍を期待して止まないものである。

安塚町公民館長 渡辺真一

あの頃のこと

男と女は一緒に寝るべきである

松 本 十三雄

日記を読み返す(5)

記録、広報、レクリエーションの運営委員が揃ってやって来た。編成が行われるのは、今も大して変わらぬまゝ。

屋敷(トモ)、盛り切りの昇平、飯が二合ないしと愛護者から文句が出たのである。母、果実をよく食う時代であった。夕食以後はお櫃で出して盛(登)文田とした。

この時の研修主題は、問題解決。学問のあり方、農村の次男対策、天下りでありケシカラン。

これが代表者の申し立てであった。ボーゲンテギという言葉が、耳には種類もつかない内容なのか、も知れない。

夕食後の町内交歓を終え、寝る時刻となった。愛護者の雰囲気はサワワめいて落ち着かない。

彼等にとっては、旅行みたいで、程目に入る前に、分科会、部屋(生活班)、各委員会(生活)

最初の関心は愛護者の受け付けのときに起こった。当時は米持参であった。一人一人金盛り二合宛であった。二石斗(三匁分)になる米をうける容れ物が間に合わなくなるといふハパンツがあらったのである。

愛護者の手配で、寝るべきで、男女が同じ部屋で寝るべきである。大山岡、男、女と交互に寝るようになって貰いたい。男女別、別、部室割りをしたのは、本部の意向であり、原則論から語って合わねばならなかった。相手は興味本位でなく、マシマであった。だが、難航した。どういふ風に納得したか、読者の想像におまかせするが、とにかく講習会初日、男女別々に就寝したのは午前一時近くであった。

あらゆる男女の差別をなくする契約、というのが困窮婦人の十年む者をひきつけてはなさない。地方自治の首長として、公民館を知る第一人者である石井さんの側面と真骨頂を知る好個の資料。

県内公民館人必読書として、ぜひとも座右に備えられよう推せんする。

本会であっせん
 版価 一冊一、五〇〇円
 (送別)

申込先
 〒91 新潟市川端町2-1-9
 県林業会館内 県公民館連合会
 TEL 〇二五二二-二四一六〇
 七三

募集(絵紙表紙)

公民館の絵画教室での傑作、利用メソッドの中で絵を学ぶ人々の作品など、なるべく多量に置かれて貰いたい。

絵の内容は、名勝、旧跡、文化財)などのほか、表紙にふさわしいものであればなんでも結構です。説明文は四回手紙度をお願いします。

あとがき

新年明けましておめでとうございます。

今年の冬は、寒がつづきの大雪に見まわれ、雪の多い市町村は、毎日除雪や雪おろしに精を出されておられるので、推察いたします。

昭和五十九年度公民館建設費予算獲得運動が、全公開済集のもと二月二〇日から開始されます。本県からは石井会長が全公開の主力として参加することになっております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(照)

おしゃべりはダイヤモンド

石井耕一著

市長という激職をこなし、かつ気鋭のエッセイストとして知られる、わが県公民館連合会会長の石井さんが「おしゃべりはダイヤモンド」というしゃれた題名の本を出版された。

内容は、少年時代から青年時代のこと、行政マンとしての日常活動のなかで考えたことなど多様だが、一貫して流れている豊かな人間性と深い洞察力が、てらいのないわかりやすい文章に支えられ、読

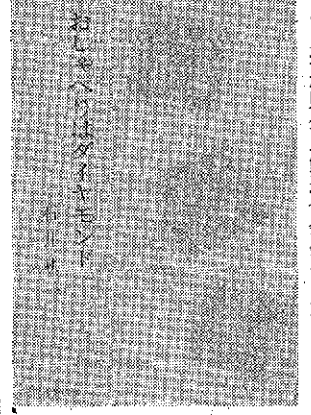
今は、しゃれて「青年リーダー」「民主主義はシン」に始まり「セミナ」と呼ぶまで。私が公に終るんだな」と言った者。民館主事になった頃は「青年団がいた。小生意気なのが付け加えて指導者養成講座」といって言った。

あった。南蒲原郡でも都内町村の「青年団体のリーダー及びリーダー候補者を対象に毎年開かれた。毎回六十名程度の参加者があった。当時は南蒲に十五町村あったから、各町村から男女各五名ずつで六十名になる勘定であった。

日程は三日四日、会場もいろいろ工夫された。加茂原農場、森町村(現下田町)等強分教場でキャン、弥彦村のの旅館、越後自治会館(新潟市高田町)にあった。元武蔵館、長岡市農研会館、三上市本成寺宿坊などが思い出される。

ワークショップ形式で、青年団運営や青年学級の学習のあり方について研修するも、共同生活体験を積むのが目的とされた。当時の若者は初めオリエンテーション、ディスカッション、レクリエーションという言葉を知らず。

昭和十九年二月二十三日、弥彦村のの旅館は朝から慌しかつた。この日から南蒲原郡青年団体指導者講習会となるからであった。看板や各部屋の標示紙は、昨夜から拍まり込み準備した。膳券(ク)を持ち込んで、名簿や要項も出来上がった。受付の机を用意したり、講義室となる大広間に座席や座蒲団を揃えたりと落ち着けなかった。指導員という名の準備係は、県教育庁南蒲出張所の相次さん、大面村(現柴町)公民館におられた中野滋さん、それに私だ。指導員には後から南蒲原郡長官普及事務所の生活改良普及員と西蒲出張所の嶋山末松先生が加わることになっていた。南蒲の講習会を西蒲で開催するにについては嶋山先生の斡旋をうけた



の命題として議論されている。現役の皆さん、どう思われますか。(前見附市立教育委員)